

QUOMO コンセプトムービー ナレーション

「Quality of Life (クオリティ・オブ・ライフ)」が直訳して「生活の質」、「Moving Mobility (ムービング・モビリティ)」が「ワクワクするモビリティ」という意味なのですが、パーソナルモビリティが街の中で活用された時、その街が楽しくなったり、更には、そこに住む人たちの生活の質の向上にもつなげたいという思いで、「QUOMO (クオモ)」は「Quality of Life」「Moving Mobility」をつなげた名前になっています。

今、日本の様々な地域における課題として、公共交通が人口縮小や高齢化によって、なかなか成立しにくいという状況になっています。それでいま注目を浴びているのが、一人、もしくは二人乗りのパーソナルモビリティという分野で、主に地方でパーソナルモビリティの活用が進められているように思います。さらに、つくば市等では、街の見守りパトロールで使ったり、ツアーに使ったりとか、新しいパーソナルモビリティを活用してもらい、それによってもたらされる新たな価値の訴求が進められています。

パーソナルモビリティというのは新しい分野でもあり、まだ一般には理解しにくいものかもしれません。そこで「QUOMO」では新しいモビリティを街の中で体験出来る機会を”試乗会”という形で定期的を開催しています。それから、地域のイベントなどでパーソナルモビリティを活用してもらって、それが活用されているという街というのが、こういったものを街の人全体に体験して頂く。この二つをクオモでは始めています。

その次に、そういった体験を通じて、パーソナルモビリティをどう地域で活用していこうか？というワークショップを地域の方々と一緒に開いて、パーソナルモビリティを活用した街づくりについて対話を持っています。

実際に乗って頂いた方々にインタビューしているのですが、そうするとワクワクするという自分の感覚に加えて、「じゃーこれを街の中でどうやって活用していこうか？」「じゃーこれが活用されている街というのは、どんな状況なんだろうか？」というような視点の拡がりを感じます。こうしたことが地域の中で広がっていけば、本当に街づくり、いろんなコミュニケーションを生み出すモビリティの活用方法につながるのではないかと、いう風に思っています。

「QUOMO」は、“移動の質”自体を改めて問い直す活動なんです。今までは、A から B まで、例えば、自動車など、早く正確に移動するというものだったと思いますが、「QUOMO」が進めているパーソナルモビリティのようなものは、A から B まで、ゆっくりと、そしてその移動自体を楽しむようなものを目指しています。そうすると、やがて地域に挨拶が生まれ、そこから地域のつながりが生まれて、それがひいては、いい街づくりにつながる。そういったものを、実現しようとするのが「QUOMO」の夢なんです。